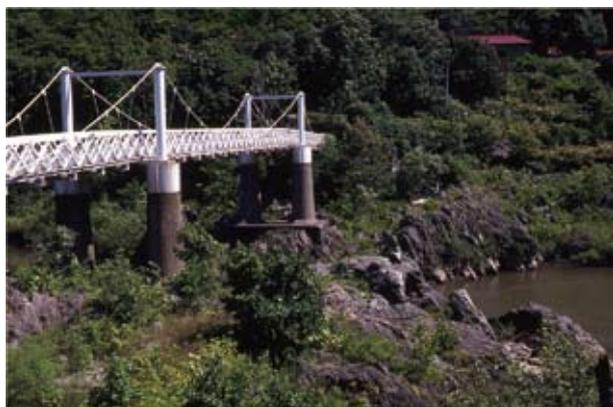


日本の地質百選に ^{かむいこたんけいこく} ^{へんせいがん} 神居古潭溪谷の変成岩 が選定されています！

平成 19 年（2007 年）5 月、「神居古潭溪谷の変成岩」が日本の地質百選に選定されました。

選定理由は『褶曲構造の見られる青色片岩や緑色片岩は地下深部で低温高压型の変成作用を受けたことを表わしている』という地質学的な特徴が高く評価されました。



神居古潭峡谷

吊り橋（神居大橋）が見える。ここでは石狩川が浸食した峡谷の出口手前になる。



緑色岩

神居古潭の吊り橋周辺では、緑色をした岩石があちこちに露出している。神居古潭を代表する岩石。

神居古潭峡谷で観察できる神居古潭帯（又は、神居古潭構造帯）は、南は日高支庁の旧三石町（新ひだか町）から北は宗谷支庁の猿払村まで、北海道を南北に約350kmにわたって縦断する変成帯です。ここでは、地滑りを起こしやすい蛇紋岩の他、陸源物質を多く含む泥質片岩（黒っぽいので黒色片岩とも言います）、放散虫と呼ばれるプランクトンの珪質の殻を主体とするチャートや二酸化珪素（ SiO_2 ）を多く含む石英片岩や、当時、海底（海洋地殻）を形作っていた岩石が変成したアクチノ閃石片岩や、それが更に低温高压の環境の元で変成した藍閃石片岩など各種変成岩からなる『神居古潭変成岩類』が数多く見られます。

旭川市西部に位置する神居古潭峡谷は、この神居古潭帯のほぼ中央にあり、かつての大陸プレートと海洋プレートの移動と衝突によって長い年月をかけて作り上げられて来た場所です。そこでは、神居古潭変成岩類を容易に観察することができるため、観光地であるとともに、国内外から多くの岩石の研究者が訪れる見学地として有名な場所です。

（地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸）